

## ■ 西都市立三財小中学校

開催日：令和5年11月15日（水）13時45分～14時30分

受講者：6年生 26名

講師：大館 真晴 氏

### ・応募のきっかけ

⇒西都市は記紀に縁のある場所が多いが、同じ西都市内でも、学校がそのような場所から離れていることもあり、西都原古墳群のことは知っていても、記紀・神話についてはほとんど知らない児童が多い。この事業を通して、歴史や昔のことを学ぶ楽しさに気付いてもらえたらと思って応募した。



・「記紀」とはどのようなものか、なぜ昔のことを研究したり学んだりするのか、西都はどのような土地で昔の西都の人は何を考えていたのか、などを知ることをテーマとして進められました。

・日本書紀に“子湯県”（児湯）に天皇が来たという記載や、平安時代に作られた辞書に三納、穂北など地名の記載があり、昔の書物を研究すると、西都の昔の人達が、地名を変えずに大事に守ってきたことがわかるのお話がありました。



・「記紀の道」に、コノハナサクヤヒメが子の産湯として使ったと言われる「児湯の池」、イワナガヒメが投げ捨てた鏡が落ちた場所と言われる「銀鏡」など、市内には言い伝えが数多くあることから、講師から、今回の授業を地域のことを知るきっかけとしてほしいとのメッセージをいただきました。

### ・児童の感想

⇒ ・昔の人と今の人は価値観や考えが違うことがよくわかった。

・「記紀の道」は聞いたことがあったけれど、良いところがたくさんあることがわかり、歩いてみたくなった。昔から地名が変わらず大切にされていることがわかり驚いた。

・教えてもらったことを家族に話したら、知らなかったと驚いていて、授業を受けて良かったなと感じた。